

登戸・向ヶ丘遊園 未来ビジョン

NOBORITO MUKOGAOKA YUEN
AREA PLATFORM

関わり続けたいまちってなんだろう？

登戸・向ヶ丘遊園のまちは、新たな活動の始まりの時期を迎えています。
区画整理事業でまちの風景が大きく変わったことに象徴されるように、まちの姿は常に変わり続けてきました。

変わり続けていくまちの中では、まちの未来について考える人が集い、
賑わいづくり、まちの環境美化、まちの魅力の発信など、多くの活動が生まれました。
一方で、神社の行事や町内会のお祭りなど、
昔から続いてきた、多世代の地域のつながりも受け継がれています。

これらの活動に参加する方々は、現在の地域住民に限定されず、
まちと人、人と人の関わり方が広がっています。

この冊子はまちづくりに関わる
この地域らしい、大切にしたい考え方
優先して取り組んでいく活動テーマ
などを記したものです。

今後、「ひらくと、登戸」を合言葉に、
より多くの方たちと思いを共有しながら、
まちに関わる様々な活動の輪を広げていきます

未来ビジョンエリアのまちづくりのコンセプト

ひらくと、登戸

多様な人々にまちを「開く」
地域の課題を明るく「啓く」
いまだ見ぬ可能性を「拓く」
新たなるにぎわいへ「展く」



§ 1 未来ビジョンの目的・位置づけ

未来ビジョンとは	8
未来ビジョンの対象範囲	9
登戸・向ヶ丘遊園エリアプラットフォームについて	10
まちづくりの体制	11
未来ビジョンができるまで	12
エリアプラットフォームの構成員と規約	14

§ 2 未来ビジョンエリアのすがた

未来ビジョンエリアの現状	16
川崎市主体で取り組んできたまちづくり	22
行政と地域が連携して取り組んできた社会実験	23
地域主体の取り組んできたまちづくり活動	24
エリアの特徴のまとめ	26
コラム：アンケートからみたまちづくりの視点	28

§ 3 目指す地域の将来像

コンセプト	30
将来像（実現したい状態）	32
将来像を実現するための姿勢・考え方	33
コラム：「まちの余白」と「DIY精神」が生んだ「フシギな状態」	34

§ 4 具体的な取組み

具体的な取組み案	36
「やってみたい！」のアイディア	39

§ 5 まちづくりの推進体制



エリアプラットフォームのロゴについて



NOBORITO MUKOGAOKA YUEN AREA PLATFORM

多摩丘陵の▲

多摩川の■

まちの●

多摩丘陵と多摩川の間に生まれたまちである
登戸のアイデンティティを示すロゴマーク。

これまでの活動で培ってきた登戸らしさを大切に、
自分たちの手でまちを作っていく思いを込めました。

1. 未来ビジョンの目的・位置づけ

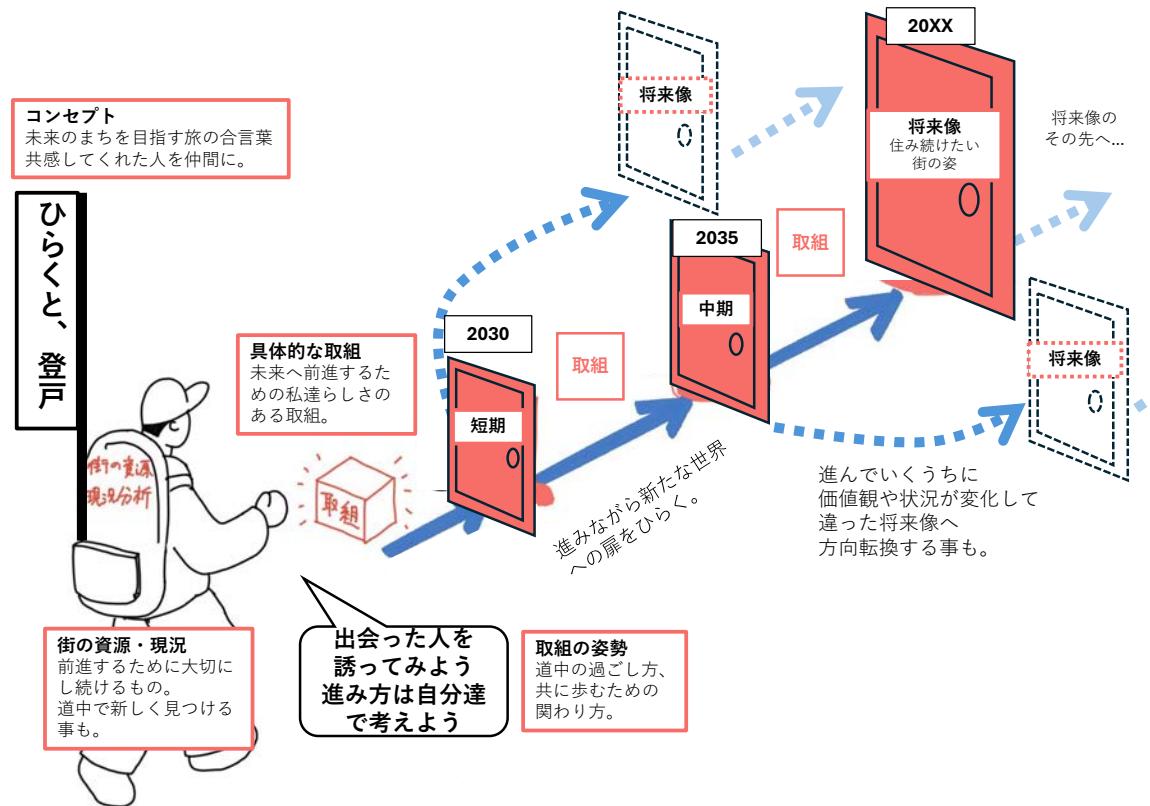




未来ビジョンとは

まちづくりの姿勢・実現したい将来と、そのための取組み・仕組みを記したものです

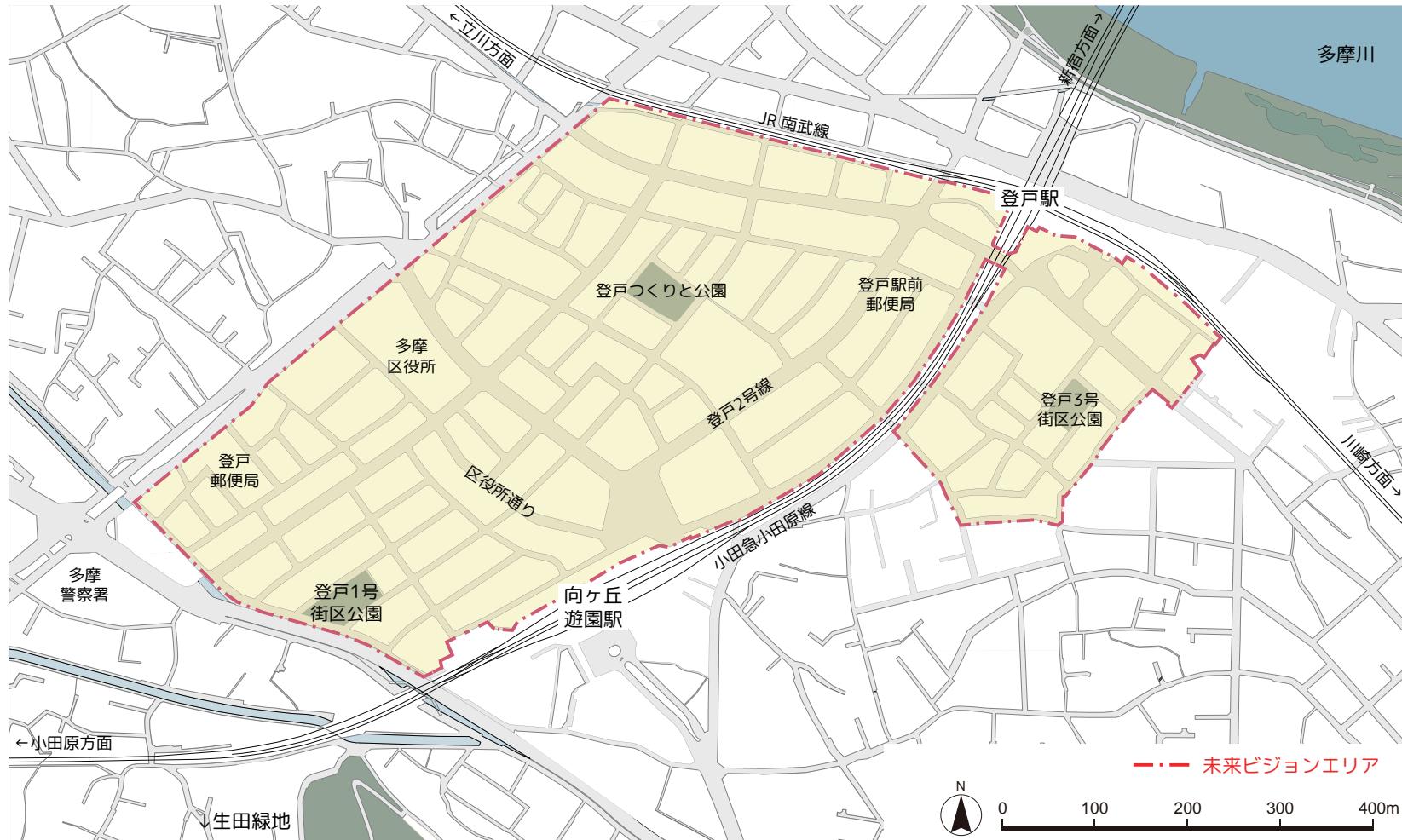
未来ビジョンを策定するにあたって、まちに関わる様々な関係者のみなさんが、実現したいまちの将来像、実現に向けた仕組みや取組みの方針について議論してきました。これからも、官・民の幅広い関係者が協力しあいながら、区画整理事業完了後のまちづくりを進めていく際に未来ビジョンが役に立つように、以下のような構成としています。





未来ビジョンの対象範囲

「登戸・向ヶ丘遊園未来ビジョン」の対象エリアは、下図に示す「登戸土地区画整理事業」の範囲とし、本ビジョンの中では「未来ビジョンエリア」と呼びます。エリアプラットフォームの活動は、基本的に「未来ビジョンエリア」を中心に行なうことを想定していますが、活動がそのエリア内で完結するのではなく、多摩川や生田緑地などで活動する団体をはじめ、周辺地域や広域との連携を図りながら、まちづくりの活動を行なっていきます。





登戸・向ヶ丘遊園エリアプラットフォームについて



登戸・向ヶ丘遊園周辺のまちづくりに関わる幅広い関係者の集まる場(会議体)です。

これまで町内会・商店街・組合や市民団体など既存のまちづくり組織や、地元企業等が参加し、まちづくりの方向性について議論・意見交換を行ってきました。今後もまちの将来を共に考え、協働してまちづくりを行うための連携を深めていきます。

エリアプラットフォームの活動趣旨*

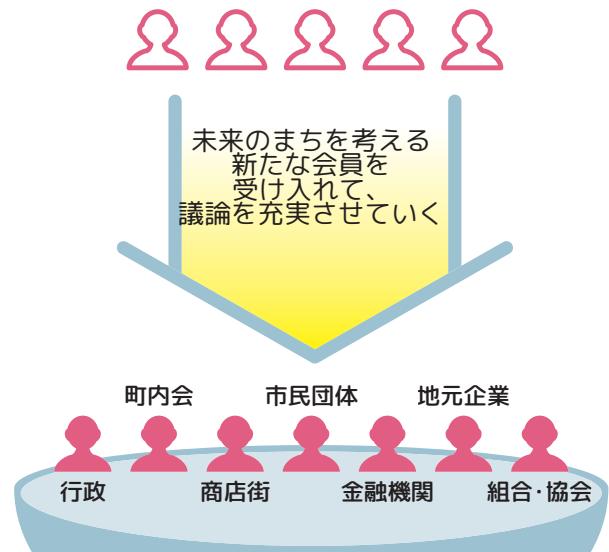
エリアプラットフォームは、その活動を通して
このまちにいる人々が幸せと思えるまちをつくること
を目指します。その実現のために、以下に掲げる4点に関わる事業をエリアプラットフォームおよびエリアプラットフォームが活動内容を承認するまちづくり法人が連携して実施します。

1. 「未来ビジョン」の策定・更新
2. 「様々なプロジェクトや人を繋ぐ場」の創出
3. 「まちのゆとりと賑わい」の創出
4. 「まちの魅力」の発信



*エリアプラットフォームの規約の記載に基づく

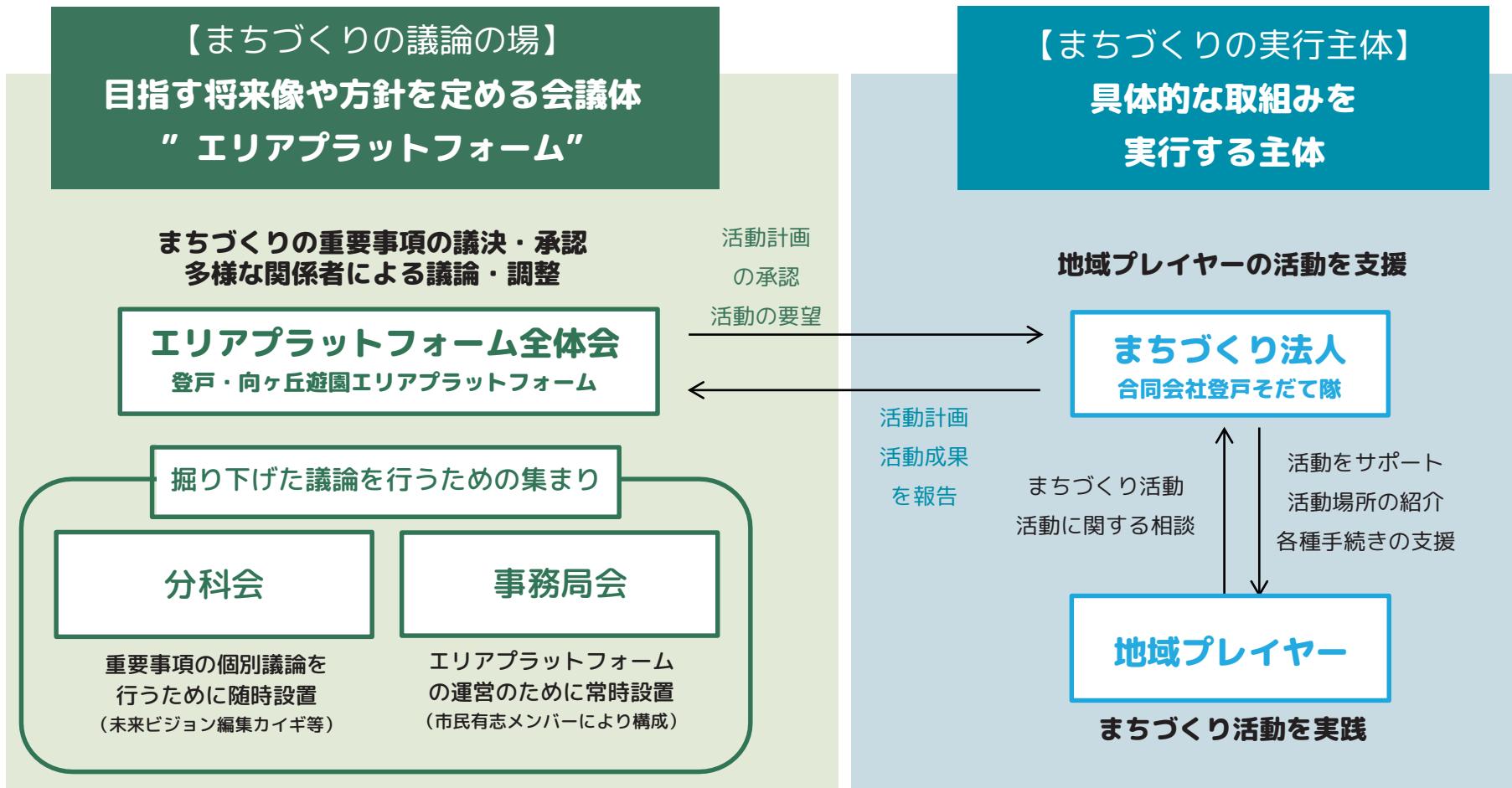
登戸・向ヶ丘遊園エリアプラットフォーム概念図



まちづくりについて議論するための器



まちづくりの体制



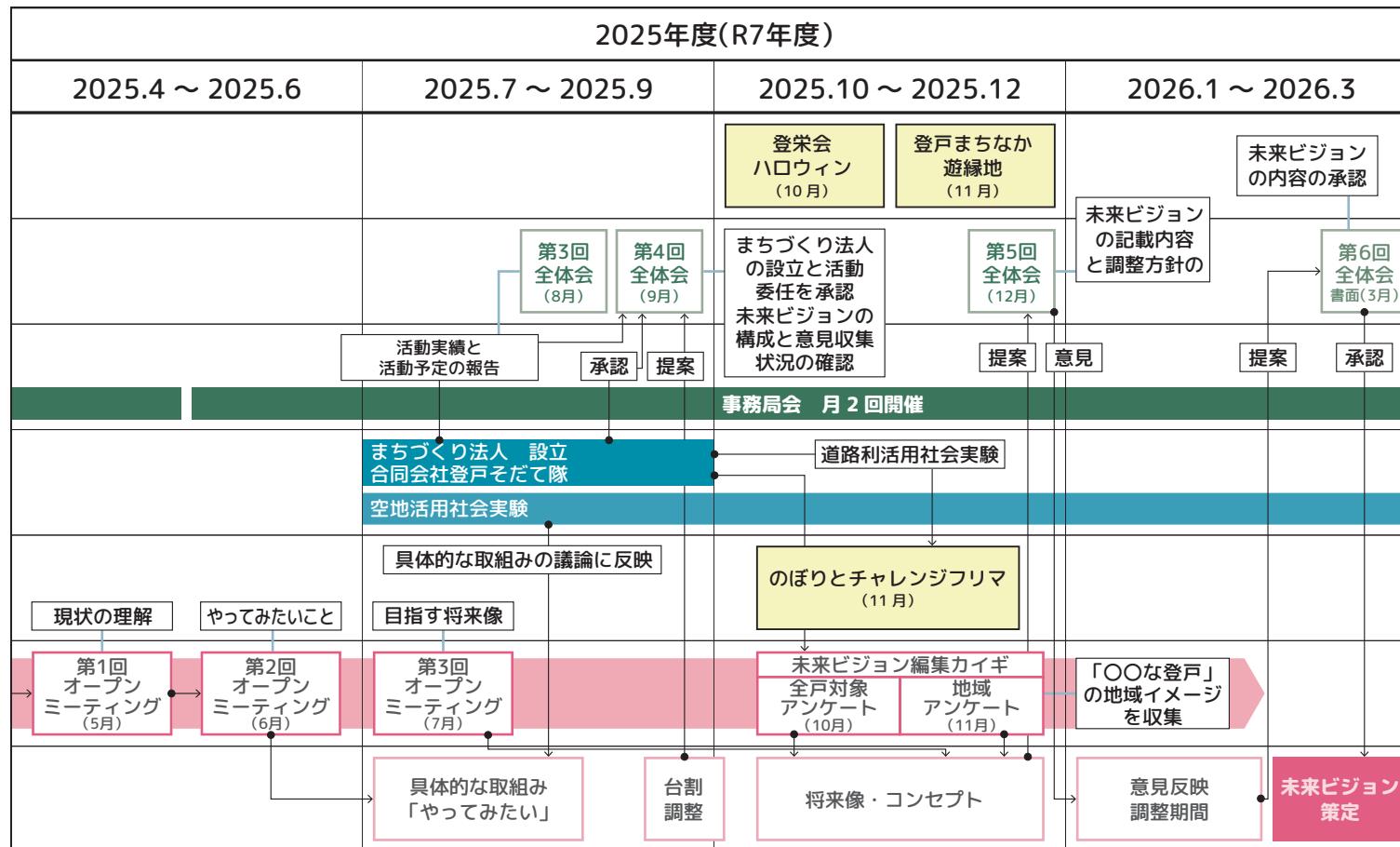
※まちづくり法人は都市再生推進法人に指定されることを目指す

未来ビジョンができるまで

2024年4月にエリアプラットフォーム準備会を発足、2025年1月にエリアプラットフォームを設立し、活動を行ってきました。

未来ビジョンに関する意見収集・議論では、通常の全体会や事務局会の会議とは別に、地域の方々へのヒアリング、公募型ワークショップ「オープンミーティング」や「編集カイギ」を重ねて、多くの方の意見を取り入れながら検討してきました。なお、本ビジョンで「○○という意見がみられる」等の記載がある場合、特に記載がない限り、これらの策定段階での市民意見を指します。

	2024年度(R6年度)			
	2024.4～2024.6	2024.7～2024.9	2024.10～2024.12	2025.1～2025.3
まちの動き			登栄会ハロウィン 登戸まちなか遊縁地 同時開催	エリプラ設立 と役職の決定
エリアプラットフォーム全体会			エリプラ設立 説明会 (2024.11)	エリプラ設立 (2025.1) 第1回 全体会 (2025.1) 第2回 全体会 (2025.3)
エリアプラットフォーム事務局会	準備会発足 (4月)	準備会・事務局会 月1、2回開催		準備会を事務局会 として位置づけ ※書面開催 提案
まちづくり法人				
社会実験 (エリアプラットフォーム主催)				89街区(空地)に掲示板設置、 みらいトーク実施 (3月)
未来ビジョンの意見収集	地域 ヒアリング (6月)	準備会 WS (7月)	mygroove 公開 (10月) 随時、 意見募集 活動報告	準備会WS (1月) 議論のテーマ として設定
未来ビジョンの検討・策定		地域現況分析	WS意見とりまとめ	まちづくりの戦略 推進体制(素案)



【各用語の意味】

・エリプラ

「登戸・向ヶ丘遊園エリアプラットフォーム」の略称

・全体会（エリプラ全体会）

エリプラの構成員が集まり、意見交換や承認を意思決定を行う場

・事務局会（エリプラ事務局会）

エリプラを運営するための実務的な議論を行う少人数の会議

・まちづくり法人

地域のまちづくり活動を担う法人。本ビジョンでは、エリプラの承認を受け、未来ビジョンに沿う活動を行う組織を指し、「登戸そだて隊」が該当する（2025.3 時点）

・オープンミーティング

エリプラ会員以外にも、広く地域の意見を取り入れるために開催される議論やワークショップ(WS)



エリアプラットフォームの構成員と規約(抜粋)

登戸・向ヶ丘遊園エリアプラットフォーム 正会員（2026.3時点）

町内会	登戸新川町会
	登戸多摩川町会
	登戸中央町会
	登戸東本町会
商店街	区役所通り登栄会商店街振興組合
組合・協会	多摩区飲食業組合
	JAセレサ川崎 稲田支店
	多摩区観光協会
まちづくり団体	合同会社 登戸そだて隊
	多摩区子ども会連合会
	稻田支部 登戸部会
	一般社団法人
	多摩区ソーシャルデザインセンター
	のぼりとゆうえん隊
交通事業者	小田急電鉄 株式会社
金融機関	川崎信用金庫 登戸支店
	きらぼし銀行 登戸支店兼稻田堤支店
	横浜銀行 登戸支店
	株式会社 井出コーポレーション
地元企業等	株式会社 maruei
	銀座ホールディングス 株式会社
	ヨシザワグループ
共同事業体	生田緑地共同事業体
行政	川崎市
事務局：市民有志により構成	

登戸・向ヶ丘遊園エリアプラットフォーム規約（抜粋）

（名称）

第1条 本会の名称は、登戸・向ヶ丘遊園エリアプラットフォーム（以下「プラットフォーム」という。）とする。

（目的）

第2条 プラットフォームは、登戸駅・向ヶ丘遊園駅周辺エリア（以下「登戸・遊園エリア」という。）において、まちづくりに関わる関係者が一体となって将来像（「未来ビジョン」）を共有し、「様々なプロジェクトや人を繋ぐ場の創出」、「まちのゆとりと賑わいの創出」、「まちの魅力の発信」をもって、このまちにいる人々が幸せと思えるまちをつくることを目的とする。

（活動）

第3条 プラットフォームは、次の活動を行うものとする。

- (1) 未来ビジョンの策定及び改廃
- (2) 未来ビジョンの実現に向けた事業の検討及び実施に関すること
- (3) その他、前条に掲げる目的の達成のために必要な事項

（組織）

第4条 プラットフォームは、次の会員により構成する。

- (1) 正会員 第2条に賛同し、目的を達成するための取組を自主的かつ継続的に行う、登戸・遊園エリアのまちづくりに関わる民間事業者、地域団体、自治体等
- (2) 賛助会員 第2条に賛同し、プラットフォームの活動に賛助の意思を持つ個人、民間事業者、地域団体等
- (3) 正会員、賛助会員のほか、オブザーバー、アドバイザー等プラットフォームの活動に必要と認められるもの
- (4) 会員の入会に必要な手続きは別に定める。

2. 未来ビジョンエリアのすがた





歴史と文化 -未来ビジョンエリアの現状-

多摩川と津久井道の交わる宿場町として発展したルーツ

未来ビジョンエリアは、多摩川と津久井道が交わり、人や物資が集散する「登戸宿」を中心に、宿場町、農村、職人のまちの性格を併せ持ちながら発展してきました。登戸の渡しや津久井道、小泉橋などの遺構や登戸稻荷社などの伝統行事からは、近代以前に遡るまちのルーツを感じられます。

戦後の急速な宅地化を経て、区画整理事業が実施される

戦後になると、道路等のインフラ整備が不十分なまま急激な宅地・商業地化が進みました。急速なまちの拡大により、狭い路地に多くの商店が集積し、猥雑ながらも独特なまちの雰囲気が生まれました。一方で、道路などの都市施設の整備が追い付かず、火災時の延焼リスクが高い、緊急車両の通行が困難などの生活環境や防災上の課題などが生じました。

上記の解決を目指して1988年から土地区画整理事業が実施され、今もまちの姿は変わり続けています。



子供たちの遊び場となっている通り
(多摩区ふるさと写真集)

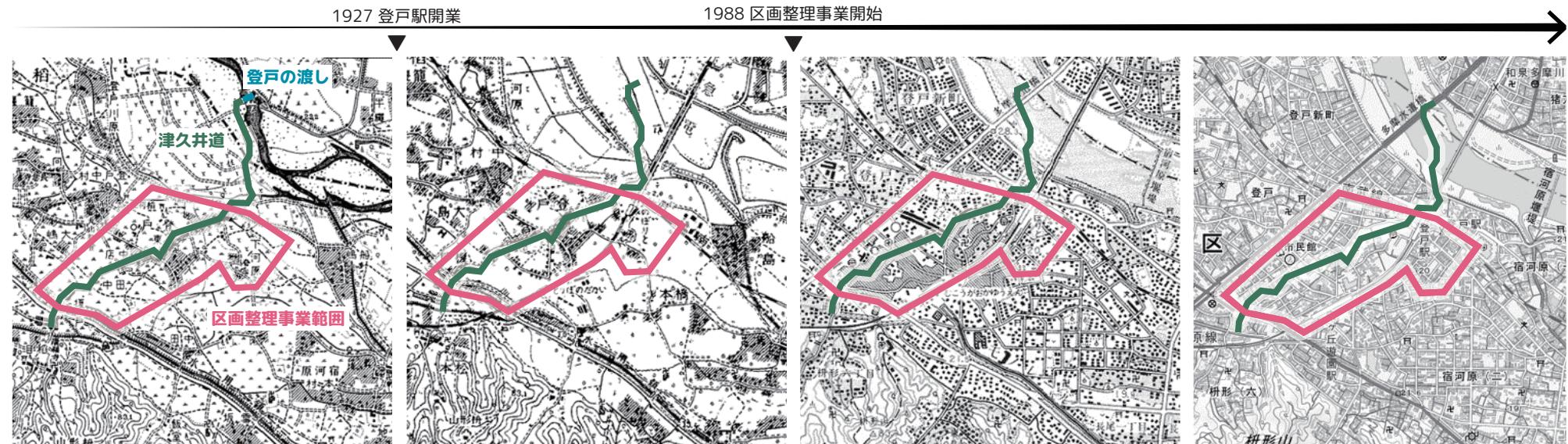
登戸の渡し
(多摩区ふるさと写真集)



向ヶ丘遊園駅北の道路狭隘の様子
(川崎市HP掲載写真)



小泉橋
(川崎市HP掲載写真)



・津久井道沿いに町が形成されている。
・町の周辺には桑畠・果樹園・荒地が多い

・鉄道駅が開業し、駅周辺に建物の立地が増える
・果樹園が多く見られる。桑畠は減少している

・駅周辺に密集した市街地の形成が進む
・市街地の中に畠や果樹園が残る

・区画整理事業により、新たな道路の整備などが進む



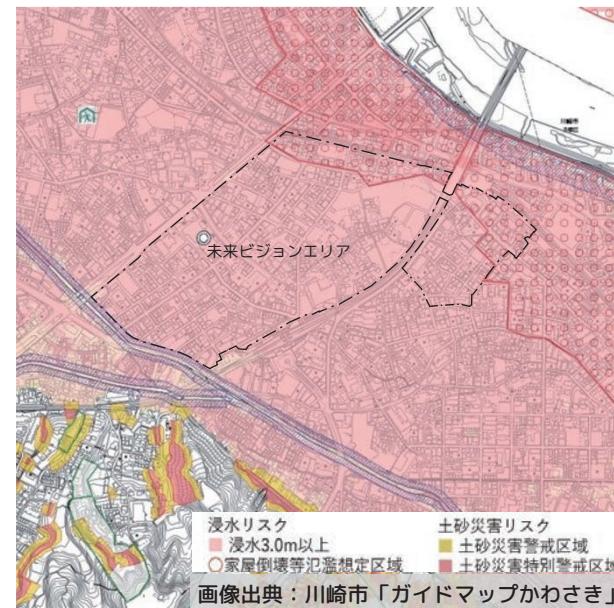
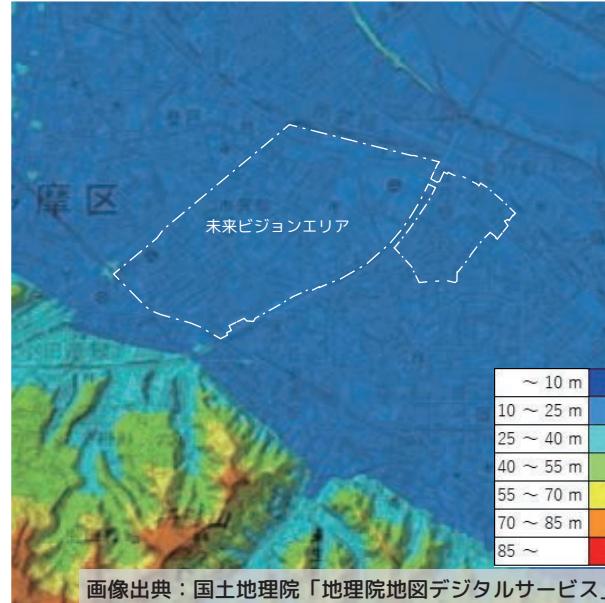
自然と地理 -未来ビジョンエリアの現状-

未来ビジョンエリアは、 ほぼ平坦な地形

未来ビジョンエリアと周辺は、多摩川と多摩丘陵の間に広がる平地（多摩川の氾濫原）に形成されてきました。平坦な地形により、自転車でも移動しやすい等の利点がある一方、浸水などの災害リスクも抱えている地域です。災害への備え・防災が地域のまちづくりの重要なテーマになるとの意見もあがりました。

生田丘陵や多摩川の豊かな自然が身近にある

未来ビジョンエリアでは、生田丘陵（生田緑地）や多摩川の豊かな自然環境にアクセスしやすいことが地域の資源として認識されており、より近い市街地にも、果樹園・農園・用水路といった、水や緑に関わる環境が充実しています。未来ビジョンエリアでも、身近なみどりの拠点を充実させる取組みを広げていくことが重要との意見もあがりました。



身近な自然環境：多摩川河川敷



身近な自然環境：生田丘陵



未来ビジョンエリア内での緑を育てる活動



土地と建物 -未来ビジョンエリアの現状-

居住と商業が中心で、両者の複合用途が多い

未来ビジョンエリアの土地利用として、住宅・商業・空地の面積割合が高く、特に、住宅と商業の複合用途の建物が多い一方、工業・業務・文教／厚生・緑地の面積割合は低い結果となっています。

住宅や商業テナントが充実して住環境の整備が着実に進む一方で、今後は、オフィスを誘致できるような、働く環境としてのポテンシャルを高めることができることがまちづくりにとって重要との意見、まちのなかで人が集まり留まる場所、コミュニティの拠点となる場所が現状では少ないとの意見があがりました。

地価の上昇傾向が顕著で、テナント誘致等に課題も

登戸駅、向ヶ丘遊園駅周辺の地価は、上昇傾向にあります。未来ビジョンエリアでは、区画整理事業を受けて古い建物が取り壊され、新しい建物が多いことも賃料が高い要因となっています。特に登戸2号線沿いなどでは、商業的なポテンシャルの高い1階であっても空きテナントになっている物件がしばしば見られ、まちの賑わいを形成するまでの課題になっているとの意見があがりました。

居住と商業の複合用途が特徴

(居住建物（マンション）、商業建物、両者の併用（低層のみ商業）建物)



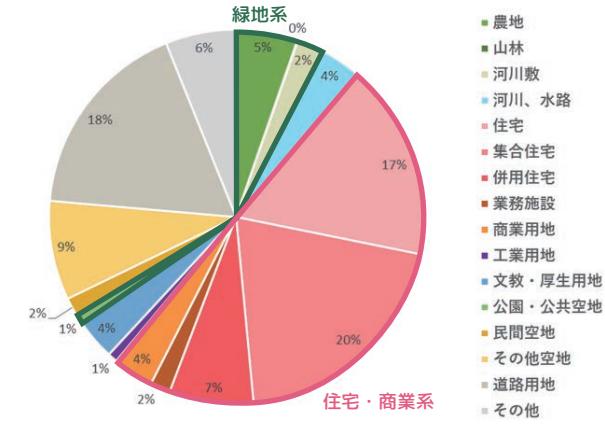
登戸2号線の沿道



区役所通りの沿道

居住・商業系が多く、緑地系は少ない

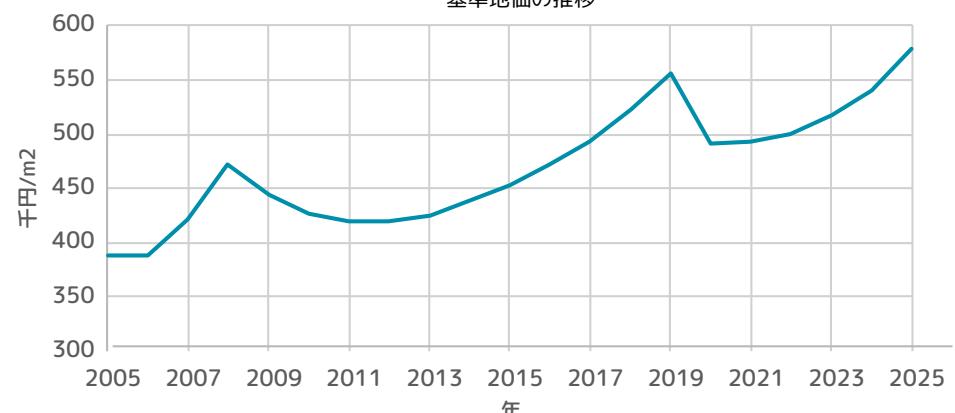
町丁名「登戸」の土地利用



川崎市「川崎市の土地利用と建物現況」
(R2年度)を基に作成

地価の上昇傾向が顕著

基準地価の推移



国土交通省「不動産情報ライブラリ」を基に作成
(調査地点 多摩-1, 同-5-2, 同-11, 川崎多摩-9, 同-26の6か所の平均)



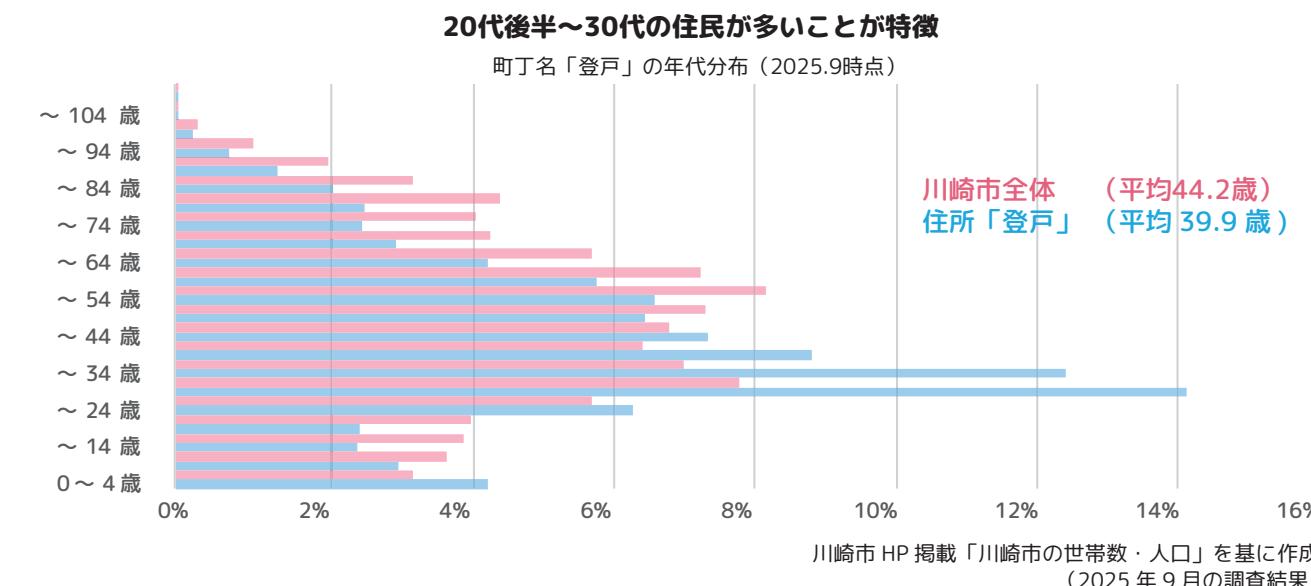
住民の構成 -未来ビジョンエリアの現状-

エリア全体として、人口増加傾向が続いている

2015年から2024年にかけて、「登戸」の住民*は一定程度（年間約500人）の人口増加を続けています。これからも、未来ビジョンエリアや周辺での集合住宅などの建設が見込まれるため、人口増加の傾向が続くと考えられます。新旧住民が分断することなく、開かれたまちづくりを進めていくことが重要との意見があがりました。

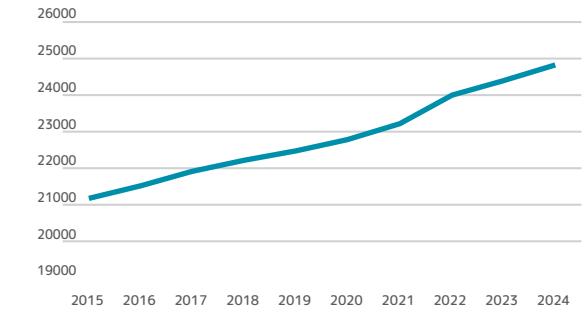
若年ファミリー・子育て世代の居住が多い傾向

2025年時点の「登戸」の住民*の年齢分布は、20代後半～30代、5歳未満が多い結果となっており、まちに子育て世代が増えたと感じるとの意見を裏付けています。子供が安全に過ごせるまちや、子育て世代動詞、子育て世代と子育て経験者のつながる場など、転入者でも安心して子育てできる環境づくりが重要との意見があがりました。



*「登戸」の住民とは、町丁名「登戸」に居住する人のことを指す

近年では毎年一定程度の
人口増加を続けている
町丁名「登戸」の人口推移



「川崎市町丁別年齢別人口」より作成
(各年度3月末時点)

特にファミリー層の人口が増加





移動と交通 -未来ビジョンエリアの現状-

「交通の利便性が高い」と認識されている

未来ビジョンエリアの住民等を対象に実施したアンケートで、地域の魅力として「交通利便性の高さ」を回答した方が約9割に上っています（p.28 参照）。また、不動産情報サイトの調査でも、交通利便性が高いことが、「登戸駅周辺は住みやすい」との評価につながっています。

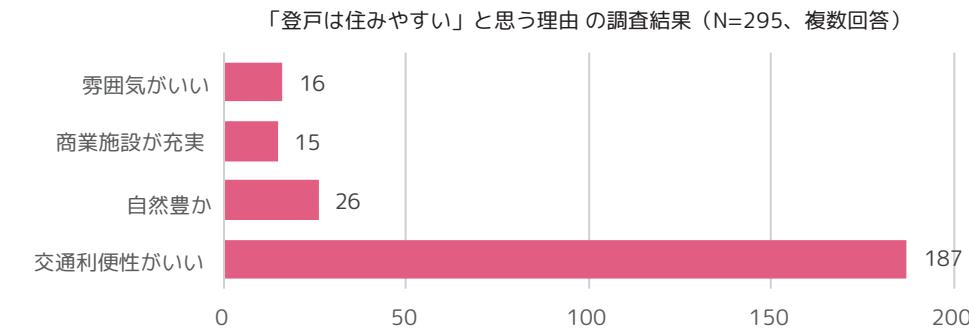
登戸駅は乗換え駅としての性格が強い

平均して1日14万人以上の方が登戸駅を利用しており、各路線の中でも利用者数が上位の駅になっています。一方、過去の調査では約8割が乗換え目的での利用となっています。今後のまちづくりを通して、人々が乗換えのついでに立ち寄りたくなるようにしたいとの意見があがりました。

自転車の利用が多い特徴がある

登戸駅・向ヶ丘遊園駅からの端末交通手段として、自転車の利用割合がほかの地域よりも高いことも特徴です。自動車と自転車、自転車と歩行者がお互いに安心して利用できる道路空間整備、交通環境づくりが大切との意見があがりました。

交通利便性の高さが、居住環境としての評価につながっている



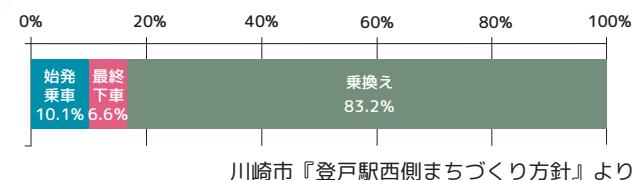
不動産サイトアットホーム掲載記事（2023年8月公開）より作成
<https://www.at-home.co.jp/town-library/article/122971/>

登戸駅は乗降客数が多いターミナル駅

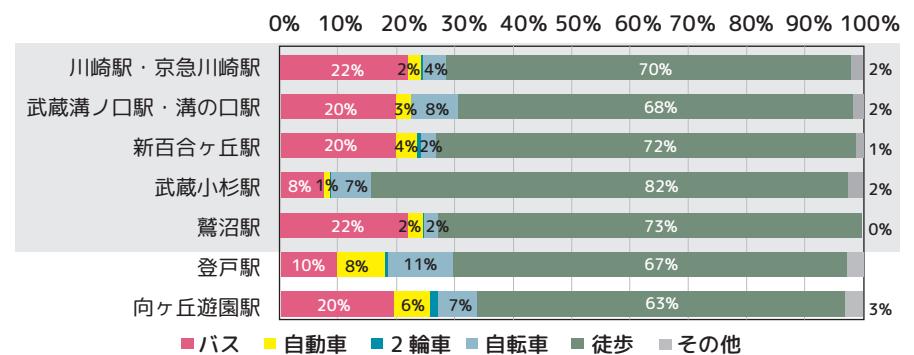
駅名	鉄道会社	平均乗降人数	路線内順位
登戸駅	JR	141,596人／日	5位
	小田急	146,926人／日	4位
向ヶ丘遊園	小田急	51,916	18位
(参考) 新百合ヶ丘	小田急	108,661	10位
(参考) 武蔵溝ノ口	JR	145,660*	5位

国土交通省国土政策局『国土数値情報』
駅別乗降客数データ（令和5年度）より

登戸駅は乗換えでの利用が多い



端末交通手段として、自転車の利用が多い





商業と賑わい -未来ビジョンエリアの現状-

駅周辺に小売店・飲食業が集積する 個人経営等の小規模で個性的なテナントが多い

宿場町に起源を持つ登戸では、古くから畠屋・左官など職人の個人店が多かったと言われています。区画整理事業によるまちの再編以前は、駅周辺を中心に多くの小規模な商店が立地している状態でした。長期的な傾向では、小売業の事業所数は減少しており、大型店舗などへの集約化が進んでいるといえます。一方で、民間事業者による商業ビルの開発も相まって、個人経営の個性的なテナントなどが増えてきているとの意見も見られました。

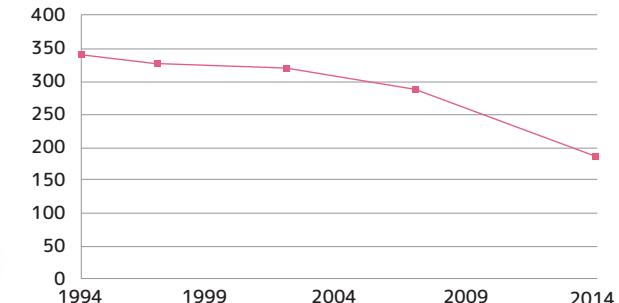
日常買買回り品など一部の商業機能に課題も

日常の活動は近隣地域（多摩区内・徒歩圏内）で、非日常の活動は東京都心部（特に新宿方面・電車移動）への外出も多い状況です。個性的な飲食テナント等が増えてきている一方で、衣料品・書籍・文具などの日常的な買買回り品の購入がしづらい点が地域の課題との意見も上がっています。

小規模で個性的なテナントの集積がエリアの特徴



長期的には小売事業所は減少傾向にある
(町丁名が「登戸」の範囲)



川崎市「事業所・企業統計調査結果」を基に作成

日常生活圏は多摩区内で完結
非日常は新宿方面へ外出も多い



「東京 PT インフォグラフ 分析圏域確認ツールにより作成」



川崎市主体で取り組んできたまちづくり

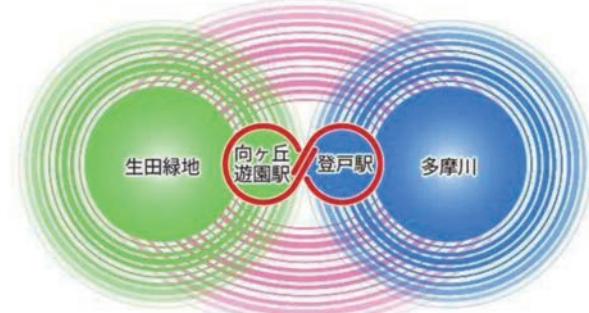
区画整理事業の推進

土地区画整理事業が開始されるまで、急速に密集市街地が形成される中で、

- ・幅員 4m 未満の道路が多く、火災時の消防活動等に支障がある
- ・上下水道やガスなどのインフラ整備が不十分

などの防災、生活環境面での課題が急務でした。

1988 年から川崎市によって「登戸土地区画整理事業」が進められ、道路などの公共施設が整備されたことで、地域の生活環境は大きく改善し、住民にとって、安全で暮らしやすい環境へと変わってきました。



『登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区まちづくりビジョン』

「人と人」「人とまち」「まちと自然」の調和を図りながら、つながりを強め、居心地がよく、水、緑、まちが一体となったまちづくりを示す概念図

地域とともにビジョンを策定し、目指す将来

区画整理事業が進むにつれて「このまちをどんな場所にしていきたいのか」と話し合う機会が増えてきました。市が策定した『登戸・向ヶ丘遊園周辺まちづくりビジョン』に基づき、主要な通り、商店街など、日々の生活と密接につながる場所について、地域の方々を中心に話し合い、共有し、ビジョンとしてまとめてきました。

『登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区まちづくりビジョン』(川崎市、2021 年)

目指す将来像：豊かな自然や文化に包まれた、活気とつながりのある心が弾むまち

『登戸 2 号線沿道まちづくりコンセプトブック』(登戸 2 号線沿道まちづくり勉強会、2021 年)

目指す将来像：多彩な人々を引き寄せ、人々が楽しみ、憩う通り
～2つの駅をつなぎ人々が回遊する“通り”づくり～

『区役所通り登栄会商店街まちづくり方針』(区役所通り登栄会まちづくり勉強会、2022 年)

目指す将来像：ここに来たい、住みたいと思える街
～地域の人に愛され、誇れる、魅力ある商店街～



『登戸 2 号線沿道まちづくりコンセプトブック』

イツモノ日のイメージ



行政と地域が連携して取組んできた社会実験

公共的空間を活用したまちづくりを推進するため、行政と地域が連携し、社会実験を重ねてきました。

日常に関する社会実験

例：ミライノバイツモの日、登戸遊園こうしん中

- ・暫定的な空地にキッチンカーを出店してもらう仕組み（ミライノバイツモの日）
- ・登戸2号線の歩道上に長期間設置する休憩施設や植栽（登戸遊園こうしん中）



常設憩い空間「こうしんテラス」の設置（2023～）



登戸2号線の沿道テナントと連携した
道路利活用社会実験（2024～）



登戸2号線「道路活用体験会」（2021）



管理用地で開催した「登戸みらいトーク」（2025）

特別な日に関する社会実験

例：ミライノバハレの日、登戸遊園こうしん中、のぼりとチャレンジフリマ

関連イベント：登戸まちなか遊縁地、オイオイ登戸ボンマルシェ ほか

- ・市主催の、道路利活用を多くの人に体験してもらうためのイベント（登戸遊園こうしん中）
- ・エリプラ主催の、市管理用地を活用した未来ビジョン関連イベント（登戸みらいトーク）
- ・エリプラ主催の、道路や市管理用地を活用したイベント（のぼりとチャレンジフリマ）
- ・地域団体等が主催してエリプラが開催支援する、道路や市管理用地を利活用するイベント（登戸まちなか遊縁地、オイオイ登戸ボンマルシェなど）
- ・沿道の店舗とも連携し、登戸2号線の歩道上に什器を設置（登戸遊園こうしん中）

成果と今後の課題

成果：日常の道路利活用について、沿道店舗を始めとする関係者から肯定的な評価が得られた

⇒今後：「憩い空間」を本整備し、什器の長期設置等の利活用に関する運用の実験を継続する

成果：特別な日のイベントを開催するための経験値・様々なノウハウが蓄積された

⇒今後：道路や市管理用地を活用するイベントの主催・開催支援を継続し、定着を図る

成果：公共的空間を利活用するプレイヤー（市民イベントの企画者等）とのつながりが構築された

⇒今後：ワンストップ窓口の整備や情報発信を通じて、公共的空間の利活用をサポートする

* 公共的空間：道路・公園・市有地（公有地）や、1階店舗と店先・公開空地・建設予定の暫定空地（民有地）など、まちのなかに開かれ公共的に使える空間



地域主体で取組んできたまちづくり活動



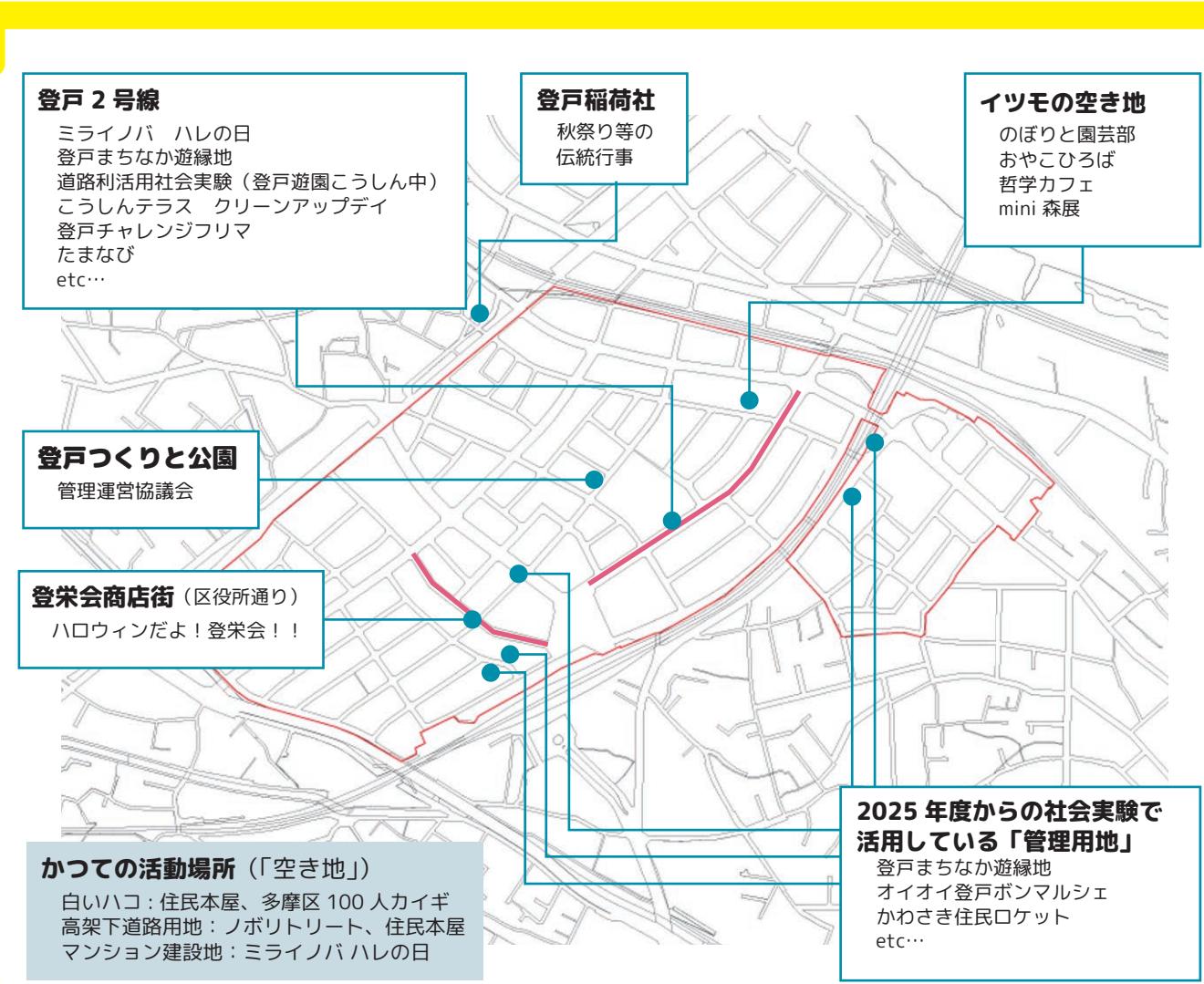
登戸稲荷社 秋祭り

地域の鎮守の稲荷社で行われる祭り。神楽や太鼓が披露される他、各町会によって神酒所が設けられ、神輿が登場する。地域の歴史的なつながりを象徴する伝統行事。



ハロウィンだよ！登栄会！！

2011年以降、登栄会商店街振興組合が主催する恒例行事。商店街を歩行者天国化し、空き地での仮装やライブ、屋台など、親子で楽しめるイベントで商店街・地域を活性化する。





地域主体で取組んできたまちづくり活動



ミライノバハレの日

空き地や道路を活用した賑わい創出イベントで、2023年は約1万人が来場。エリアプラットフォーム結成以後は、道路や空き地活用の社会実験として主催/協力を行いながら活動を実践。



登戸まちなか遊縁地

登戸まちなか遊縁地は、地域の住民が自ら企画する賑わい創出イベント。2016年に始まり、フリマやマルシェ、スタンプラリーなどを通じて、登戸の未来を考え、作る活動を行っている。



ミライノバ イツモの日

川崎市と小田急電鉄の協定により、キッチンカーの出店を募集し、登戸駅周辺の空き地や高架下沿道に出店してもらうことで、駅周辺の店舗が少ない時期にも賑わいを創出してきた。



ノボリトリート（～2024）

登戸駅の高架下空き地（現在は道路）で2023-24年に定期的に開催された。街と共に鳴る非日常空間を創出し、「いつもの街でハッとする」、即興のストリートアートパフォーマンス。



のぼりと園芸部

登戸駅近くの「イツモの空き地」で、花や野菜を育てる地域団体。2022年発足後、誰でも参加可能な園芸活動や関連イベントを通じて、みどりと人、人と人とのつながりを育んできた。



住民本屋

空き地や高架下を活用して住民主体で開催される本とアートのマルシェ。ノートリボが主催し、フリーペーパー「ノートリボ」や哲学カフェと併せて、地域の記憶と交流を育む場に。



多摩区 100 人カイギ（～2025）

暮らす・働くなど登戸・遊園に関わる100人が登壇し、交流するイベント。地域の魅力を再発見し人のつながりを生む場となり、様々な活動が生まれるコミュニティの起点となった。



駅前本棚（～2025）

向ヶ丘遊園駅前の商業ビル内に設置された本のシェアスペース。住民や来訪者が本を持ち寄り、読む・交換することで交流を促進。園芸部や住民本屋と連携したイベントも展開。



未来ビジョンエリアの特徴 まとめ



**エリアの特徴（主な強みと課題）を踏まえた
まちづくりの視点を次のとおりに整理します。**

まちの日常風景づくりに関する特徴

空き地での園芸活動・沿道の店舗と連携した道路利活用など、まちの魅力的な日常風景を作るとともに、地域のコミュニティを育てるまちづくり活動が地域に根付いてきている。

一方、エリア全体では、人が集まり交流できる拠点・みどりの拠点・文化的な拠点が少ない（分かりづらい）課題がある。

まちの賑わいとイベントに関する特徴

市民が主体となって、区画整理事業に伴う暫定的な空き地や道路などの公共的空間を活用したイベントが数多く行われており、まちの外から多くの人を呼び込んでいる。

一方、歴史的な行事を支える地域コミュニティの継承、イベントに継続のための体制づくりが必要などの課題がある。

まちの魅力と対外イメージに関する特徴

区画整理事業に伴う建替えや不動産開発が進む中で未来ビジョンエリアの商業環境も大きく変化し、新たに個性的なテナントが入居するなど魅力ある商業空間が発展してきている。

一方、まちの魅力が十分に知られていない、日常的にはまちの外から人を十分に呼び込めていないなどの課題がある。

	まちの魅力（強み）	まちの課題
自然環境	多摩川や生田緑地の豊かな自然環境が近くにある まちの空き地で緑を育てる活動の実績がある	まちのなかの身近なみどりや、休憩・交流できる屋外空間 は多くない
商業環境	区画整理事業に伴って開発されたビルなど、飲食を中心とした個性的なテナント・商業の集積が進んできている	区画整理事業に伴って廃業・移転した店舗もある衣料品など、 買回り品の商業機能はあまり充実していない
交通・生活圏	東京都心や川崎市中心部へのアクセスに優れる駅、発達した バス路線、自転車が利用しやすい地形など、交通利便性の 高さを背景に、住環境が充実してきている	登戸駅は多くの乗換客が利用するが、乗換のついでにまちに 立ち寄るような需要はあまり呼び込めていない オフィスの立地など、働く環境としての機能は少ない
歴史・文化	宿場町に由来する歴史を持ち、伝統的な行事や昔ながらの 世代間交流が残っている	まちの風景が変わり、地域の歴史性や個性を感じられる場所、 文化的な拠点がわかりづらい
コミュニティ	区画整理事業によって集合住宅が増加。 人口の流入が進み、特に若い世代が多く活気がある	住民やテナントの流動性が高く、既存の町内会や商店会などの 既存のコミュニティ活動を持続しづらい 人が集まり留まる場所、コミュニティの拠点は少ない
市民活動	暫定の空地や道路などの公共的空間を活用したイベントの 実績があり、まちづくり活動の担い手が豊富	暫定的な空地の活用など、区画整理事業中だからこそ実現 できている活動も多く、活動を継続する工夫が必要



コラム：アンケートから見た、まちづくりの視点

未来ビジョンエリアにお住まいの方などを対象にアンケートを実施しました。
結果の抜粋を掲載します。

地域の魅力としての「生活利便性」と「自然環境」

公共交通の利便性や自然環境の近接性が、全世代を通じて高く評価されている。

商業活性化とまちの魅力づくりへの期待

料品や生活雑貨など日常生活の利便性向上や、公共空間等を活用した魅力的な場づくりに対するニーズが高い。

特に若年層を中心に、まちのにぎわいやブランド力の向上を求める声が多い。

安心・安全な暮らしへの関心

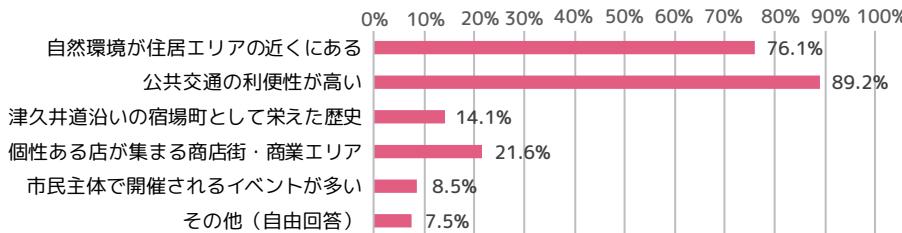
防災・防犯、交通安全など、安心して暮らせる環境づくりは、全年代・全属性に共通するまちづくりの基礎的な観点として認識されている。

交流・参加・チャレンジの場づくり

「誰でも参加できる」「新旧住民の交流」「チャレンジしやすいまち」といったキーワードは、一定の支持が得られている。

特に若年層では「チャレンジしやすさ」、高齢層では「交流」や「歴史への関心」が高い。

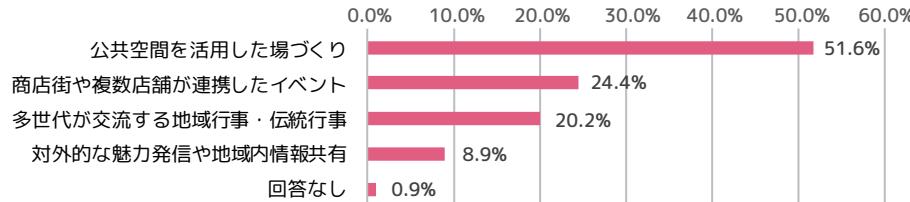
地域の魅力や、好きなところ（複数選択）



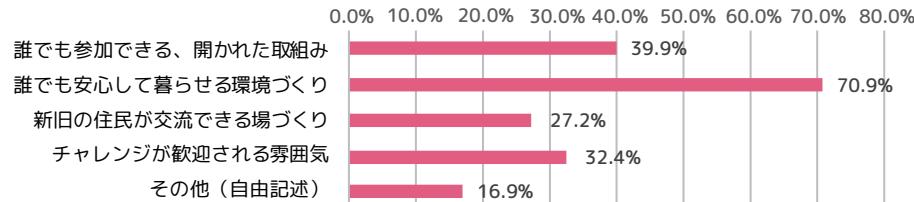
特に関心のある、まちの課題（複数回答可）



最も応援したい取組（一つ選択）



まちづくりを進めるうえで、欠かせないとと思う要素（複数選択）



3. 目指す地域の将来像





ひらくと、登戸

"私"がひらく、"みんな"の未来のとびら

多様な人々にまちを「開く」

地域の課題を明るく「啓く」

いまだ見ぬ可能性を「拓く」

新たなるにぎわいへ「展く」

「ひらく」ことで、新しい登戸の姿が見えてくる。

未来ビジョンは、登戸に関わる市民自らの手でつくる指針です。
様々な課題や多様な意見に向き合いながら、能動的に未来へ進む意志を
「ひらく」という言葉に込めました。



将来像（実現したい状態）

まちづくりのコンセプトをふまえた、目指すエリアの 将来像・実現したい状態をまとめました

日常の賑わい：
日常の市民生活を豊かにするような市民主体の活動がまちのなかで展開され、人々が交流する状態
特別な日の賑わい：
年に1回など規模の大きいイベントによって、地域外の人も含めてまちに多くの人が集まる状態

**「やってみたい」の挑戦にまちの中をひらき、
日常の賑わいが生まれる** “私”の「やってみたい」が、“みんな”の日常を豊かに

新たな人や活動を受け入れるひらかれたまちで、新たな可能性を拓く日常の挑戦の積み重ねが、まちの魅力となる。
挑戦する勇気を持った人に寄り添うまちで、一步踏み出した誰もがまちの課題を明るくひらく一員となる。

**手作りのイベントでまちを外にひらき、
特別な日の賑わいが生まれる** “私”がつくる、“みんな”の特別な賑わい方

やっほーと挨拶できるような、安心できる顔の見えるひらかれたコミュニティが、手作りのイベントを支える。
新旧の「登戸にしかできないイベント」が共存し、まちの外からも人を呼び込みつつ、あらたな賑わいへひらかれていく。

**まちの魅力を内外にひらき、誰もがまちに
誇りを感じられる** “私”が見つけひろげるまちの魅力、“みんな”が誇りを持てるまち

変わり続けるまちのことを考え続けることで、まちや人の今昔を掘り下げ、新たな魅力の扉をひらく。
まちに住む人／関わる人が誇りを持って「やっぱり登戸っていいね」と思える、まちのブランディング。



将来像を実現するための取組の姿勢・考え方

まちに住む・関わるみなさんと将来像を実現するために、これまでのまちづくり活動の中で大事にしてきた／これからも大事にしたい姿勢・考え方をまとめました。

誰にでも開かれていること

- 多世代・多様なバックグラウンドを持つ人を受入れ、開かれた雰囲気で楽しみながら活動する。
- 同じ空間や時間を共有することで人と人のつながりを大切にする。

自分たちの手で自分たちのまちをつくること

- 自分の住む町は、自分たちで作るマインドを大切にする。
- 自分たちの手で、自分たちのまちを変えていける実感を持てるまちづくりを目指す。

自己変容しつつ、新しい人や活動を受け入れること

- 安心できる暮らしを守りながら新しい人や活動を受け入れる。
- 優しく寄添い、背中を押して挑戦を応援する。
- 生まれ変わるサイクルを大事にする。

まちのことを考え続けること

- まちとの関わりを持ちながら、まちについて考え続ける。
- 世代を越えて、まちについて共に考える仲間を増やしていく。
- まちについてオープンに話せる場を持ち続ける。



コラム：まちの余白とDIY精神が生んだ「すこし・ふしぎ」な登戸

空き地から「まずやってみる」

川崎市多摩区に居を構えていた漫画家、藤子・F・不二雄先生の不朽の名作「ドラえもん」には、土管が積まれた空き地がのび太たちの遊び場として登場する。F先生が「すこし・ふしぎ」と呼んだ日常と空想が地続きにつながるSF作品の、宇宙や時空を超える物語のはじまりは、いつも「空き地」である。

未来ビジョンエリアでは30余年にわたる土地区画整理事業によって、建物や道路の建設予定地や、区画整理事業用の管理用地など、大小さまざまな未利用地が生まれた。それらの「空き地」は、地域の人々の「まずやってみる」活動の舞台となってきた。住民が手作りで立ち上げたイベントや居場所づくり・実験的な活動の場として使われ、管理者の登戸区画整理事務所が地域と密なコミュニケーションをとってきたことで柔軟な運用ができた。

登戸の住民が持つ旺盛なDIY精神に加えて、様々な人が混じり合う流動性の高さも実践的活動を後押しした。新しい人を受け入れ、「とりあえずやってみたら？」という雰囲気を、元から住む人々も醸し出してきた。新しいチャレンジに寛容なまちの雰囲気が育まれていたといえるだろう。

市場に飲み込まれる、チャレンジのための余白

一方で、不動産市場の観点から見ると、登戸の利便性の高い立地が、新たな課題を生んでいる。価値が高いエリアゆえに、これまでトライアル的に地域の文化を育んできた「空き地」が次々と開発され、“まずやってみる”余白は急速に失われつつある。

だからこそ、これから登戸のまちづくりには、チャレンジを許容しつづける余白—計画しすぎないこと、経済合理性だけで判断しないこと、人々の試行錯誤や偶発的な出会いを許容すること—を意図的に生み出す戦略が求められる。遠回りに見えるものこそが、新しい活動やコミュニティを生む土壌になる。

戦略的に余白を生み出すまちづくり

登戸は、これまで偶然に支えられてきたDIYまちづくりの環境を、これからは戦略的につくり出していく段階に入った。まちのどこに余白を残し、どのように開いていくのかが、地域の未来を大きく左右する。余白を“未来の文化を育てる装置”として位置づけ直し、挑戦し続けられるまちの基盤を整えていくことが、これからエアープラットフォームの重要な役割となるだろう。

新しい世界へつながる「どこでもドア」を置くために、このまちには“空き地”が必要だ。

登戸・向ヶ丘遊園エリアプラットフォーム アドバイザー
小泉 瑛一 (about your city)

4. 具体的な取組み





具体的な取組み①まちの日常風景をつくるための取組み

公共的空間*を活用し、「やってみたい」をサポート。 まちの内外の人がつながる取り組みを支える

* 公共的空間：道路・公園・市有地（公有地）や、1階店舗と店先・公開空地・建設予定の暫定空地（民有地）など、まちのなかに開かれ公共的に使える空間

継続的な活動・新たな活動を行う場所の提供 →公共的空間をまちづくり活動の場として仲介



主な対象 既存地域プレイヤー、
新規地域プレイヤー

公共的空間を定期的に解放し、
地域プレイヤーが自らの手で持
続的な地域コミュニティをつくる
活動を継承しつつ、新しい
プレイヤーを発掘する。

誰でも気軽に立ち寄れる場所づくり →まちの公共的空間を居心地よく演出



主な対象 既存地域プレイヤー、
地域住民

公共的空間を利用し、誰でも
気軽に立ち寄って休憩したり、
まちの人同士で交流したり、
地域の店舗が活用できる場を
つくる。

利活用プレイヤーの参入をサポートする仕組み →手続きや相談のワンストップ窓口の開設



主な対象 既存地域プレイヤー、
新規地域プレイヤー

公共的空間をプレイヤーが活用
する際のワンストップ窓口を開
設する。アイディアの具体化を
サポートし、新たな取組みを行
いやすい環境を整える。

継続的な活動・新たな活動を行う場所の提供 →まちの利活用情報が見れる掲示板を設置



主な対象 地域住民、
来街者

掲示板を設置・運営し、リアル
な空間でまちの情報発信や意見
収集を行う拠点をつくる。
公共的な空間そのものがプロ
モーションを yönや目指す。



具体的な取組み②特別な日の賑わいを続けるための取組み

多くの人が集まる非日常のイベントを主催／支援し、
地域の活性化につなげる

特別な日にぎわいづくり

→エリプラによる大規模イベントの主催



主な対象 既存地域プレイヤー、
地域住民、来街者

公共的空間を活用し、まちの特別なにぎわいを創出するイベントを開催。これまでに開催してきたイベントを継続し、地域に定着させていく。

イベント主催者をサポートする仕組み

→地域が主体のイベント開催をサポート



主な対象 既存地域プレイヤー、
地域住民、来街者

公共的空間を活用するイベントの開催をサポート。商店会が主催するお祭りなど、新旧問わず地域プレイヤーがイベントを開催しやすい環境をつくる。

誰でもイベントプレイヤーになれる場づくり

→チャレンジフリーマーケットの開催



主な対象 既存地域プレイヤー、
地域住民

公共的空間での活動を試行するフリーマーケットを開催し、誰でもプレイヤーとしてまちのイベントにチャレンジできる環境ときっかけをつくる。

商業の活性化

→複数店舗連携のイベント主催・支援



主な対象 既存地域プレイヤー

まちの店舗と連携したイベントを開催。日常的な集客力向上を目指して店舗の魅力をアピールしつつ、地域内外からの集客を活性化する。



具体的な取組み③まちをブランディングする情報収集＆発信の取組み

まちづくり活動や、地域の魅力について掘り下げる情報発信を行い、まちのブランディングを図る

幅広くまちの魅力を発信する仕組み

→インターネットを活用した情報発信



主な対象 既存商業プレイヤー、来街者

活動の記録や情報を発信する SNS や WEB ページの運用により、幅広くまちの魅力を発信。まちの外に向けたブランディングを実施。

実際に見て知ることのできる仕組み

→まちを見て回るツアーの開催



主な対象 来街者

ブランディングアンバサダーによるまち歩きや、食べ歩きツアーの開催など、参加者が地域の魅力を発見できるイベントを開催。

まちのディープな情報を発信する仕組み

→人・歴史を深く掘り下げる地域誌の発行



主な対象 地域住民

まちの歴史や人の声をディープに掘り下げ、発信する地域誌を発行。日常的には触れられないまちの魅力を記録として残しながら広い世代に発信する。

コミュニティをつなぐ仕組み

→地域に関わる人同士をつなぐ情報発信



主な対象 地域住民

新規住民、子育て世代、外国人など、様々な人向けの情報を発信しつつ、活動団体同士のつながりを作る。暮らしの様々なコミュニティ活動を支援。



「やってみたい！」のアイディア①

**生まれ変わる登戸のまちづくりはこれからが本番。
まちに関わるみなさんの、「やってみたい！」のアイディアを集めました。**

屋台があればなんでもできる！

自転車で移動できる屋台をつくって、
空き地や駅前でバーや本屋を展開。
多世代の交流をうながすきっかけに。

夜も来たいまち、登戸

登戸・遊園を目的地になるようなまちとしてプランディング。
大人も楽しめる、夜を充実させる。
手始めに2号線でビールウィークや
扉や窓をオープンするイベントを。

つながりの種

ゆるいつながりや多世代交流を目指して、
2号線で映画の上映会や公園で昔遊びなどをやってみる。
将来的にはいろんな人が地域コミュニティに参加・地域イベントの担い手を育て、お祭りでの御神輿の担ぎ手が200人集まるまちに。

一畠プロジェクト

まちのいろいろな一畠分程度のスペースに、
ひまわりの種を植えたプランターを置いて咲かせる。
その活動を通して子どもと地域のつながりをつくり、大人も子どもも街のことを考え続ける状態を目指す。

みんなのつながり

登戸に住む外国人や子どもたちが、駄菓子屋イベントなどを通じて交流できる機会をつくる。
新規住民の人たちが旧来の町会コミュニティにとけこめる手助けを。

まちのお店体験ツアー

まちの飲食店に詳しいアンバサダーがガイドする食べ歩きツアー。
個人店の魅力をアピールしながらお店とお客様の関係性をつくり、まちを多くの人に知ってほしい。





「やってみたい！」のアイディア②

みどりのお手入れ

街路樹や花壇のお手入れをみんなで行う。日常の風景づくりに携わって、まちへの愛着を増やす、顔見知りを増やす！

屋上開放デー

高い建物が増えた登戸。屋上から見る景色の良さ、夜景の美しさはまだあまり知られていない。屋上を開放して、ちょっとした非日常のひとときを。

チャレンジショップ

新規事業者が安価に間借りでき、新しい小商いにトライできる「箱」となる場所を作りたい

音楽 PARADE

2号線や駅前で、誰もが楽しめる音楽祭を開催。音楽が身近にあるまちにしたい！

登戸の生活史

登戸に住んでいる、関わっている人々のストーリーを掘り下げる。「あなたはなぜ登戸に？」

町会や商店街の枠を超えたイベント

地域イベントのボランティア募集

みんなの縁側

いつでも気軽に立ち寄れる、かわりばんこに使える公共的スペースが必要！

サークル板@web

色々な「まち活」の情報が分かり、新たにまちの活動に参加しやすくなる。登戸以外の地域の活動とも連携した情報プラットフォームで地域内外プレイヤーをつなぐ

まちの案内所

おすすめのスポットやお店がわかる場所

まちの Tama River

多摩川をみんなのたまりばに。大人も子供も楽しく過ごしながら、自然に交流できる場所

昔遊び・今遊び

多世代遊びあいながらお互いに教えあい、自然と交流

セルフ感謝祭

まちの活動は大変なこともあったけれど、みんなで頑張ってきた。まちの変化を振り返って、讃え合おう！

路上映画祭

路上で映画を上映。夜が涼しくなる季節に、まちの文化で交流を

まちあるきツアー by Kids

子どもだからこそわかる、まちの魅力を発信！

子どもとお年寄りの交流

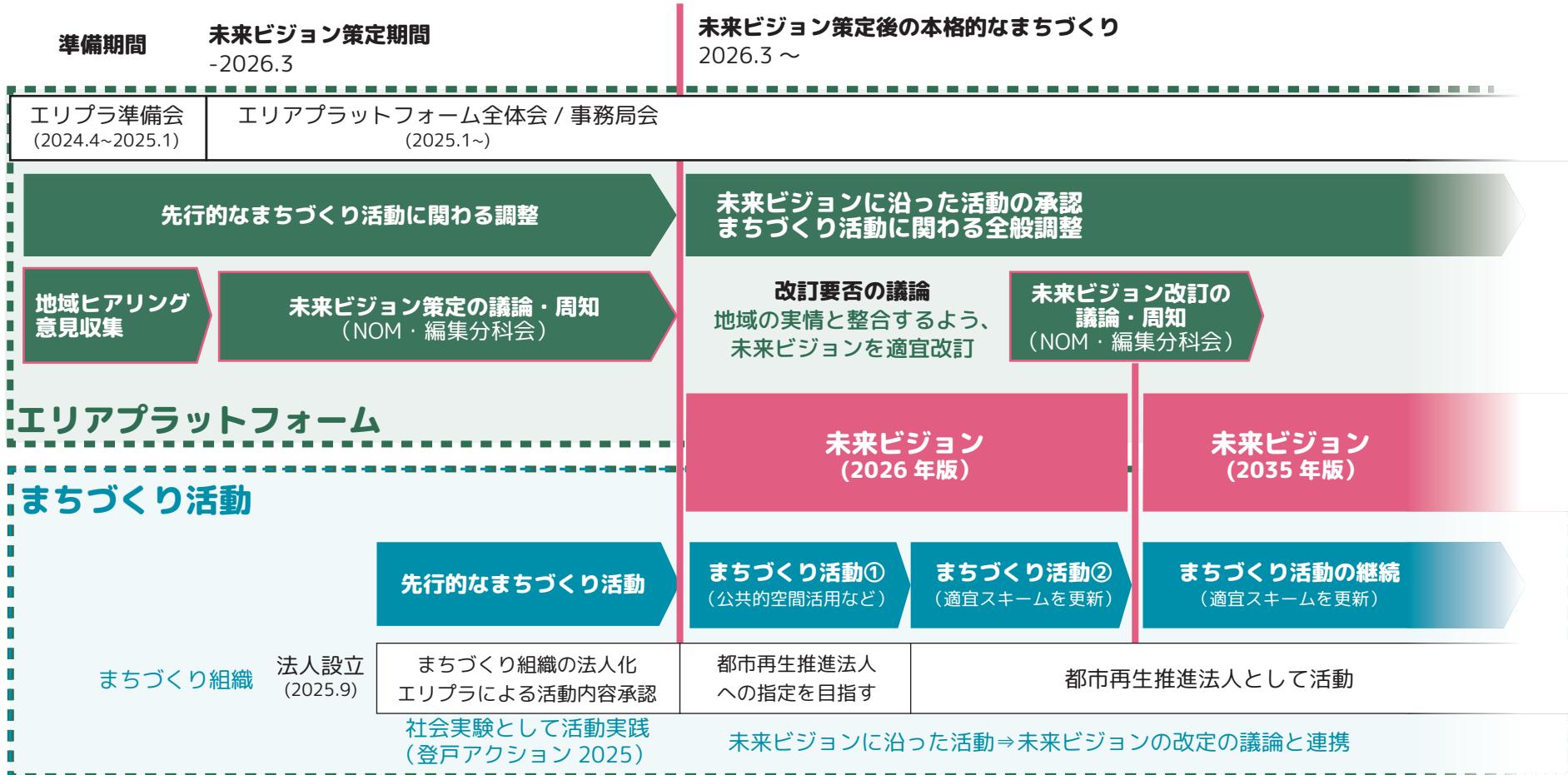
4. まちづくりの推進





未来ビジョンとまちづくりのこれから

地域主体のまちづくり活動の状況や、再開発事業などのまちの変化に合わせて
未来ビジョンを更新しながら、まちづくりのための議論を継続していきます



登戸・向ヶ丘遊園エリアプラットフォーム事務局

2026年3月